

寫眞週報

編輯部報情閣内  
第七十・號二廿第・日三十月七

傷兵の職業補導  
練習艦隊歸る





# てすを衣白



内閣府文化庁



## 集募賞懸案圖一タスポ同合

## 報週眞寫週

切締々愈



本誌及び「週報」が、内閣府文化庁から雑誌誌として編纂・発行されてゐること、普及徹底させるため両誌合同のポスターを左記規定により懸賞募集する。

一規 定

募集期間：「寫眞週報」「週報」の全冊を一枚にて表現するもの

文法用字：内閣府文化庁編集「寫眞週報」のグラフィック

賞金：一等（一名）三百圓  
二等（一名）百圓  
三等（二名）五十圓  
佳作（十名）二十圓宛

色型形式：日本標準規格判B1判（縦一〇三〇×横七二八）五色刷以下

編集：「寫眞週報」「週報」の全冊を一枚にて表現するもの

審査：内閣府文化庁

締切：昭和三十三年七月十五日

発表：同七月二十七日発行開始

（制作）内閣府文化庁  
（印刷）東京市麹町区永田町  
（編集）内閣府文化庁

（制作）内閣府文化庁  
（印刷）東京市麹町区永田町  
（編集）内閣府文化庁





### 機能回復療法

臨時東京第一陸軍病院  
臨時東京第三陸軍病院

□ ほど快癒した傷兵軍人は、機能検査を終ると、その結果に従って、後療法で、神経障害その他の治療を受ける。機械治療室の運動器で、手の残存機能を回復させている戦傷兵士。(第一)

□ 職業準備教育として、治療の合間に、智的教育、技巧教育(徒手運動、巧機運動)が施される。おなじみの巧機運動。子供にかへつて、無聊を慰めてある間、段々、指は弾く力を加へてくる。(第二)

□ なつかしい射撃練習も、巧機運動の一つだ。もう、引金も楽にひけるやうになつたが、再び戦場に立てない不自由な身体を、社内に在つて、銃無き英雄にならうと、一心に的を撃つ。(第三)



## 傷兵の職業補導

あらゆる科長が動員されてる立体的な近代戦に於ては、その必要力も又大きく、職員の職能も、むしろ高くなるものとなつてを、今次戦争に於ても、幸い陸海軍の職員の裏には決死隊、いくたび、ついに名譽の職員の裏には、戦死する白衣の勇士は、相當の數に上つてゐるのである。これらの傷兵軍人のうち、兵役免除となる人は、傷兵院の外、増加され、傷兵年金を給與、その職能にたつて將來の生活を保障することになつてゐる。全各地陸海軍病院に收容された軍人は、復讐にむかふと同時に、一刻も早くその健康をとり戻して再び第一線に立ち、もし時はぬ時は、慰問などに頼らずに、國家社會に貢献しよう、といふ熱烈な決意を以て奮闘を感服させてゐる。

勿論、國家では、傷兵軍人が、社會人として立派に働けるやう、その職能に十分考慮をほらひ、傷兵保護院を設け、療養、職業指導、再教育に具全の力をこめて、積極的に、残存能力の向上に努めて、國家社會に貢献しよう、といふ熱烈な決意を以て奮闘を感服させてゐる。

職能補導は、その間に當る官廳のたよつてはならぬ。當然、國民全體の義務として、上下階級の間に、傷兵軍人の職能補導に、努力を要する。今次戦争の傷兵軍人で、戦死者以外、まだ各地陸海軍病院に加療中なので、本格的な再教育施設はなされてゐないが、傷兵保護院では、東京警成社代行大坂、福岡には東京、道府縣には一々、傷兵軍人の職能補導をなす施設で、いづれも、依頼から具體的な活動に入る筈である。

傷兵軍人の人生再建に、新しい産業的職能補導と作業用具の供給は、總論に必要であるが、それよりも先づ、肢體不自由者に対する國民一般の思い遣ひを矯正し、傷兵軍人が一生、その職能に國家の誇りを保てるやうに導かれねばならぬ。

アメリカのフォード自動車會社では、會社を社會の福利と考へ、當然、不具者も雇ふべきものとして、片腕でも出来る仕事に七百五十種、片腕で職能を得る職能が二千六百三十七種あり、その他百目の人にもそれ相當の職能が案出され、互ひに和らしく働いてゐるといふ。各産業管理は、近代産業の分業性を、傷兵軍人のために、十分利用すべく考案しなければならぬ。

巧機運動は、上肢運動(手、腕)下肢運動(足、膝)全身運動(全身)があり、簡単な遊戯で馴らしてゆく。二輪固定自転車は、下肢障害者の爲に備へつけられてゐるが晴天の日以外は外で蹴球運動も行ふ。(第三)

□ 手の機能障害と同様、機械治療室には足関節輪軸器があり自分でハンドルを廻すと、足が上下左右にくるやうになつてゐる。機械の力で慣性を與へ、段々、自然に動くやうにする。(第三)

□ 神経障害、痲痺等は、水治療室で電気治療を受ける。頭痛、肩、腰に電気治療を受けた勇士も、完備した設備、診察によつて、めきめきと、その健康を回復して来た。(第三)







**基礎訓練**  
臨時東京第一陸軍病院  
臨時東京第三陸軍病院

療養生活中の慰安と教養を兼ね、又、除役見込者の手技訓練に資する為、それぞれ、適當の教師を招聘して繪畫、習字、簿記等を教へてゐる。(第一)

初めは、練一本彫るのも容易でなかつたが、今日この頃は、立派な鎌倉彫りが出来るやうになつた。技術が向上すると、のみみ操作も楽しみなつて、朝から皆一生懸命だ。(第一)

兩眼盲眼傷兵にとつて、音楽はまづ唯一の慰安である。病院では音響器、ラヂオを完備する他、希望によつてギター、尺八等の楽器に依る慰安を興へてゐる。(第一)

第一陸軍病院では、醫學的見地から慰安運動を奨励すると共に、臨床治療と連繫させて、將來の職業準備の指導を行ふ爲に、臨時特務委員会(慰安部、運動部、身上調査部、臨床機能検査部、職業部)を設置、治療指導に當つてゐる。算盤は社會に出てから何と必要だ。職業部員の指導で、自由な手を動かしながら、熱心に練習する勇士達。



千五百餘坪の農園設計圖、傷痍軍人の八割を占めてゐる農村出身者の復興教育に資すべく、此處には養蠶、養魚、養豚場を設け、花壇と野菜畑もつくる計畫がある。(第三)



第三陸軍病院では、他の陸軍病院と違つて、看護婦さんが一人も居ない。此處では、機能検査、恩給診断、後療法、體力増強、職業衛生準備教育を行ふが主だからである。それだけに、この施設も異り、偉大な農園も出来つつある。徳銀運動を兼ねて新農業者訓練法を學びながらつくつた、トーチカ式養魚場、錦々と見に載れてゐる戦傷兵達。



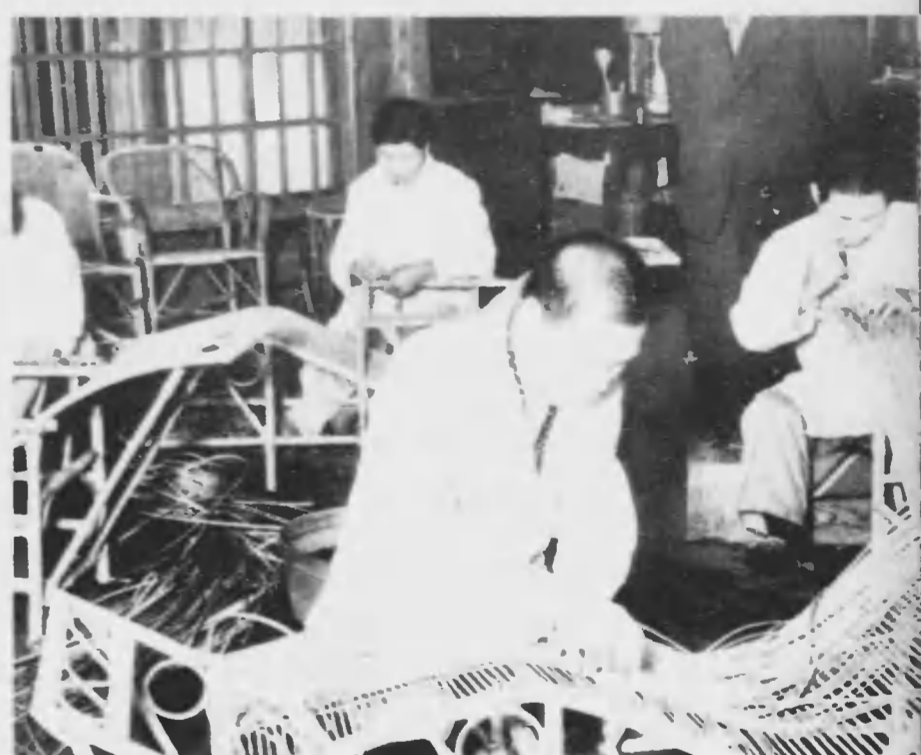
# 職業再教育

啓成社

国立再教育機関は大阪市及び小倉市附近に、今  
次事業関係傷痍軍人を收容する国立再教育機関  
が建て増される予定である。現在同社の授業課  
目は、洋服科、ミシン裁縫科、婦人子供服科、家  
具科、縫工科、履物の六科目で、その他十二  
科目の委託教育を施してある。  
縫工科は、甲種は一年、乙種は六ヶ月で修了  
立派な職人になる。



啓成社の委託科目は、鍼灸マッ  
サージ術(本科二年、研究科二年)  
製菓業(二年)時計修理業(二年)  
写真術(本科一年、研究科二年)  
製菓技術(本科二年、研究科二年)  
全職上術(二年)石版印刷術(二  
年)按摩術(二年)で、適宜の商  
店工場をえらんで、講習生として  
委託する。  
東京大塚の某時計店に委託  
された、鄭家地近衛町の勇士小  
松銀三曹長(左大塚骨折)



職業能力回復事業の機関、財団法人啓成社は  
大正十四年九月東京市豊島区西巣鴨二〇番地に  
設立され、いまだ、再教育をうけた傷痍軍人  
産業戦線の犠牲者五百三十二名が立派に誕生し  
てゐる。  
婦人子供服科は、北支南支の戦場で上陣、  
陣中に戦傷を負つた探井則一上等兵が、去る六  
月十日、今次事業関係初めての再教育者として  
入社、ゴタンの穴がかりから勉強してゐる。

啓成社で再教育をうけた満洲事變の勇士高  
瀬英四郎上等兵(31)は、旋盤工として、新  
人生のスタートをきり、東京板橋の田中鐵工  
所で銃後産業戦線の第一線に立つて働いてゐ  
る。同上等兵は、左上肢、左胸部の貫通銃創  
により、左肩関節及び左肘関節の運動制限、  
左手筋力減退といふ後遺症があるが、仕事  
には何等の支障なく、月収は九十圓、妻いそ  
さ(26)と幸福に暮してゐる。

## 人生再建

街の職場

小石川區大塚坂下町  
一八二に洋服店を開業  
してゐる加藤上等兵  
(35)も啓成社で再教  
育をうけて、成功した  
一人だ。同上等兵も、  
満洲事變當時新開地附  
近の戦場で、砲弾破片  
創をうけ、右手小指、  
中指の機能を失つたが  
再教育により洋服屋さ  
んとして更生、現在の  
處に開業、妻りつさん  
(24)と、弟子と三人  
で、生活の再建に一生  
懸命である。

豊島區池袋四丁目  
の軍人床屋 鈴木理髮  
店の主人鈴木忠司氏  
(38)は、満洲事變當  
時航空上等兵として活  
躍、ついに右胸部に銃  
創をうけ、機能障害を  
のこして除隊、その後  
啓成社の社外委託生と  
して理髪を学び、現在  
の場所を開業したも  
のである。同氏は語る  
「幸ひ、お客さんの後  
援を得て、月百五六十  
圓の収入があります、  
傷痍軍人でもその心構  
へ一つで立派にやつて  
ゆきましょう。」





# 豪雨のなかの勤勞奉仕で建設

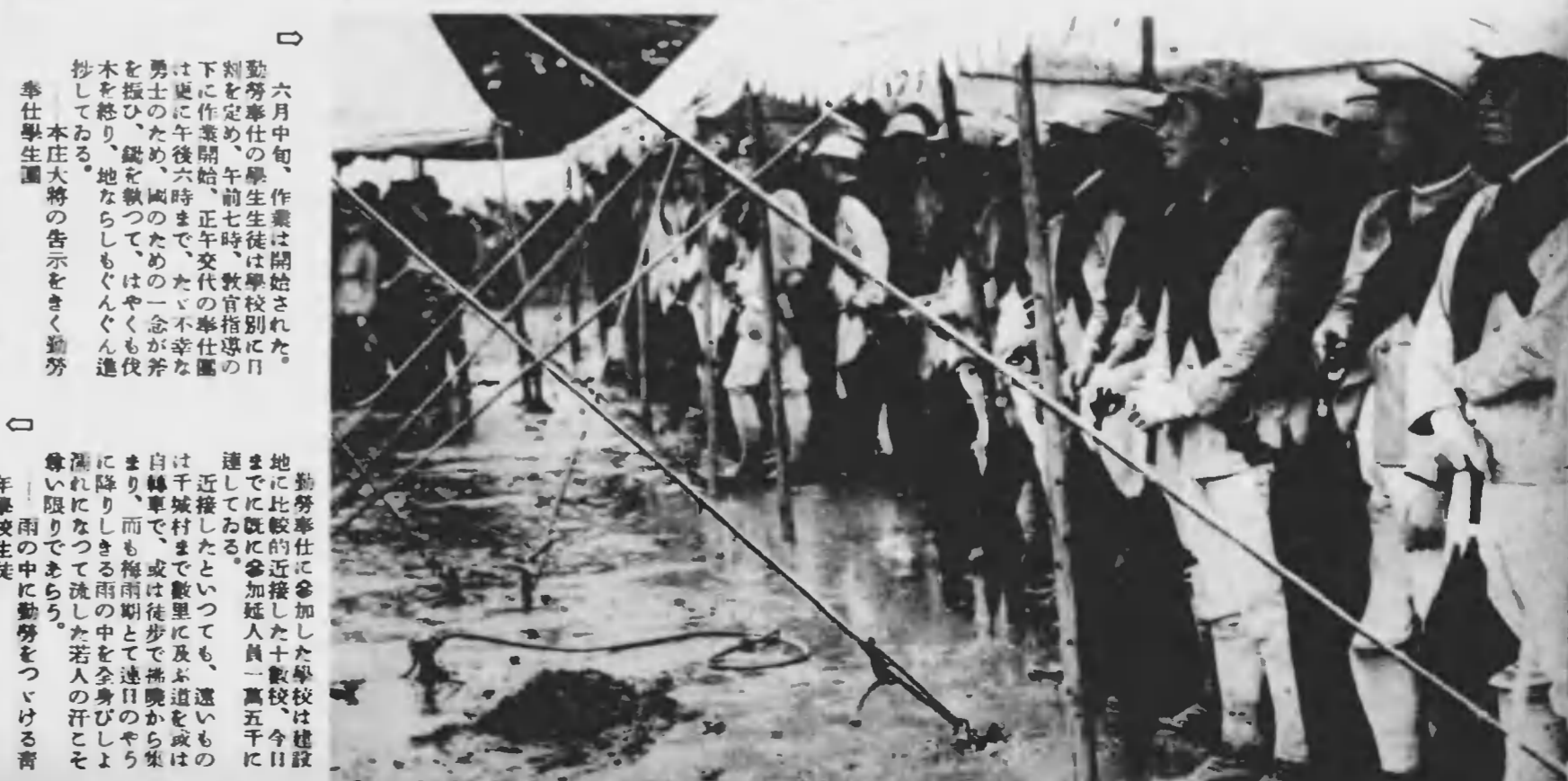
## 傷兵千人療養所



歐米大戦が終つて傷兵軍人の保護問題が、我が國の保護政策にも遺憾なく反映せられた。當時の米國大戦は、我が國の保護政策にも遺憾なく反映せられた。當時の米國大戦は、我が國の保護政策にも遺憾なく反映せられた。...

### 傷兵保護院

多々千葉縣知事の講入式



六月中旬、作業は開始された。勤勞奉仕の學生生徒は、各校別に日刻を定め、午前七時、教育指導の下に作業開始。正午交代の奉仕區は、更に午後六時まで、大いに辛勞を極めた。...

傷兵軍人千葉療養所の地盤祭は六月二十九日午前十時半から多々千葉縣知事以下関係官民及び多々千葉縣下學生生徒等多数参加して行はれた。本庄大將の告示朗讀

千葉市は千葉市の東方約一里、建設地は約五萬坪の美しい松林である。傷兵軍人療養所の建設がここに決定するや、縣下の高等専門學校、中等學校、青年學校學生生徒たちの熱心な協力を得て、若人の熱心な汗で建設しようとする一大勤勞奉仕運動となつた。各列の各學校教育



加藤恭平





# 朝鮮に志願兵制度を生ずる

## 京城陸軍志願兵訓練所



新制定の軍服を身につければ、榮光輝と肩にかゝやく一つ星強く燃たてよ、皇軍新生の若びな。半島二千三百萬民衆のホープ達！

南總督の閱兵をうける、若き半島戦士二百二名、いま大陸を燃倒す日本精神をその鋭い眼ざしにこめ、毅然と整列した頼もしさよ。

撮影 京城日报社



議は熟き間にきたへよ、不動の姿勢と軍手の端は、皇軍精神の端的な現れである。入所第一課は、厳しい敬禮の練習から初

今次の軍服は、その雄果の過程に於て皇軍民族に新史代を創造する偉大な生命力を與へつゝある。然し、この新しき軍服を燃倒すべく、急激に準備してゆく歴史必然の確保、發展は、一に目された皇軍民族の協力の如何にかまつてゐるのだ。

この時にあつて、半島同胞に垂れさす能はる、皇軍精神を、朝鮮同胞の真の希望であつた陸軍志願兵制度の公布されたことは、皇軍一統、皇軍の體面が名譽ともに強化された現れとして、半島はもとより、全日本に民族的感奮が激うつたのであつた。

志願兵制度公布と共に、全道から蜂起した志願兵は二千九百餘名を數へ、その中から精選された二百二名の青年達は、六月十五日の入所式を前に、半島同胞の赤誠、愛國の熱情が風流となつて湧き出す、さかんな歓迎に堪へて、皇軍第一課として、京城陸軍志願兵訓練所へ入所したのであつた。

第一課志願兵を年別に見ると、

|          |         |
|----------|---------|
| 二十二年(三三) | 二十一(三七) |
| 二十一年(三五) | 十九(二八)  |
| 二十(四五)   |         |

となつて居り、六月十五日、南總督、小嶋司令官他又官多敷参列の下に、京城訓練所である京城大學講堂で入所式を挙行、志願生は、半島青年の名譽と責任を双肩に擔つて、無敵軍の一員となるべく、教鞭に鞭を傾けてゐる。

われら、全日本青年の希望をかけて半島の戦線に入る日を持たう。







みんな、無敵皇軍の兵士となるのだ。その起居動作言葉は臣民の模範とならねばならぬ。学科では、手紙の書き方も熱心に学ぶ。

故郷からなつかしい便りが届いた。素朴な一字一句にも、名譽のわが子とわかっつ感激がこめられて、忠孝の大義に生きる今日の歡喜が胸をつく。

軍服式餐食を、皇軍の一員となつた心構へとし、上に、堅一ぱいづつめばいひ知れぬ英気が五體の隅隅からわき上つてくる。



「まあ、りつぱになつたこと！」  
 凛々しく變つた軍服姿に、面會にきた親兄弟もしげしげと見とれるばかり。もう立派な大日本の干城だ。

はりきり新兵さんの數れを快よい眼りにのせて迎ふる夢路はいづこ。今こそはつきり戦友と呼べる皇軍の戦士大陣か、故郷の山河か。







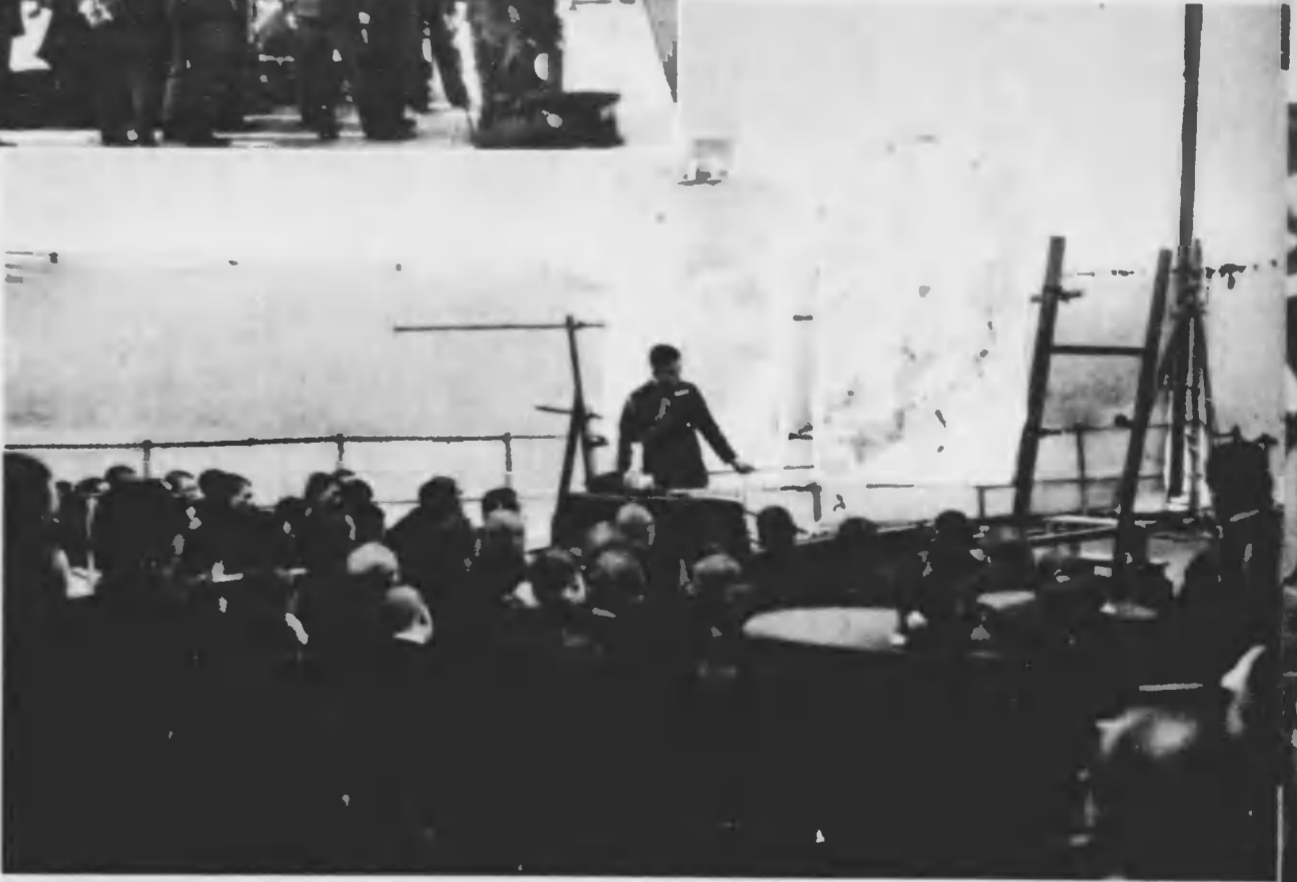




○ 關北の見學、あの激戦はこ  
の地で、わが先軍はこの盛地  
に、あの日に奮戦した當時を  
現地でしみじみと知る。



○ 陸戦隊隊上で自  
ら剣を握つた部隊  
長から當時の戦況  
を聴く、示される  
地圖が生きてすぐ  
目の前に一望廣域  
となつて廣たはつ  
てゐる。



○ 黄浦江の艦上で海軍武  
官室の沖野武官の講話を  
聴く、武官室の艦上に命  
中する弾丸下で支那側と  
接衝した沖野武官のあの  
頃の話に若い候補生の血  
はおどる。



○ 上海戦中での最激戦地  
廣中路を見學する。記念  
碑指定地と書かれた土壁  
のかけに眠る先軍の靈  
よ！候補生のたむける  
夏草を來たりて享けよ。

内報 知新 新聞 社主 後援  
富士写真フィルム株式会社協賛  
**愛國寫眞懸賞入選**

社頭に映ゆ

東京市京橋區船場六の四 前原 敏通 馬  
尾張町ビーム内  
数多戦歿英霊の中にわが息子も安らかに眠つてゐる。  
皇國の民の感激と名譽を胸いっぱい、靖國神社に参拜することの日、  
老いた父の胸には日露役従軍章と遺族章が光つてゐる。(一等賞)

|      |         |      |       |
|------|---------|------|-------|
| カメラ  | イコフカメラ  | レフコ  | 百分の一  |
| レンズ  | ツヴァイフェス | フィルム | コロムビア |
| フィルム | ライカ     | フィルム | コロムビア |
| フィルム | ライカ     | フィルム | コロムビア |

愛國寫眞

愛國寫眞といふ新しい言葉が廣  
く生じた。寫眞を以て報國の一端に  
と、カメラを執つて戦後に起つた  
運動である。  
藝術寫眞の衣を脱ぎ捨て、カ  
メラをペンに代へ、この時局に何  
物かをつかんで見る人に訴へるの  
である。百聞一見にしかず、なら  
文字を讀むのは聞くよりも手  
間とる。常に千讀一見にしかず、  
カメラは今日まで繪畫に挑戦して  
敗れた。千讀一見にしかずれば、  
寫眞は文字に挑め、文學の分野に  
洗を入れよ。ライカ、コンタック  
スは近年進である。かつての日露  
戦の勇士が今事變に偉業を圖にさ  
けてしかも社頭を飾るとす。この美  
麗に長期不動の國民の習俗があ  
り、國旗の日露戦争従軍章は一段と  
光を増して威たり。一等入選、野  
末にまで行きわたつた。野末の  
聲、そのののののののののののの  
等入選、一等入選をかぶつて、餘後  
業に大華を散らす少年、一等入  
選、二天に代りて不羈を撃つ。と  
受持の御旗を送つて幾月、突然赤  
十字病院に轉れ、戦傷兵としての  
勇気を知つた兒童、結核から買つ  
て渡された花束をか、ハ、オ、ス、オ  
と入氣ない門前に歸還する二少  
年(一等入選) 或は竹影に伴から  
の軍事郵便を孫に讀み聞かす老翁  
の姿、選外佳作、いづれもペンよ  
り強い表現である。寫眞寫眞の意  
氣や社、その健全な發達を希望す







心は躍る

東京都台東区 豊島 峯 幸

南京入城の日、夢中の全市は日旗で埋まり、「日本萬歳」「皇軍萬歳」の聲は、熱烈な皇民化運動の渦まく臺灣全島をゆるがした。(三等賞)

|      |                 |       |      |
|------|-----------------|-------|------|
| カメラ  | キヤノン 135mm F3.5 | レヤフター | 百分の一 |
| レンズ  | キヤノン F4.5       | フィルム  | 黄色三號 |
| フィルム | キヤノン            | ネオパン  |      |

お見舞に

東京都日本橋区 大西 熊太郎

赤十字病院に行くのならと、お見舞の花もお姉さんから買って買った、お母さんからお見舞の手紙も渡されました。いま幾月よりかかへる先生、白亜の大きい建物の前にちよつとはにかみほを赤らめた小学生、「さあ、行かろうよ」(三等賞)

|      |           |       |        |
|------|-----------|-------|--------|
| カメラ  | コニカ       | レヤフター | 二十五分の一 |
| レンズ  | キヤノン F5.6 | フィルム  | 黄色二號   |
| フィルム | キヤノン      | ネオパン  |        |



野良のひととき

埼玉県入間市 高橋利三郎

春の頃、貯蓄報国のかけ聲は野良のすみかみまで行き渡り、お百姓も土が沁み固く、した手にピラを握りつづける。(二等賞)

|      |           |       |      |
|------|-----------|-------|------|
| カメラ  | コニカ       | レヤフター | 五分の一 |
| レンズ  | キヤノン F5.6 | フィルム  | 黄色二號 |
| フィルム | キヤノン      | ネオパン  |      |



神苑の篝火

東京都豊島区 山下 康

奉安下の神苑神社大祭、満洲、支那兩事變に散つた國の雄魂四千五百三十三軒敵かに合祀される招魂の夜、清浄の雨しと、降り、あか〜と篝火は焚かれた。(三等賞)

|      |           |       |      |
|------|-----------|-------|------|
| カメラ  | ロイヤルコニカ   | レヤフター | 五分の一 |
| レンズ  | キヤノン F5.6 | フィルム  | 黄色二號 |
| フィルム | キヤノン      | ネオパン  |      |

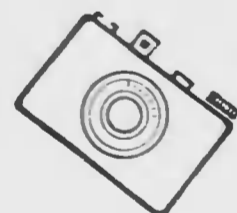


少年研農工

東京都日野市 野村 秋良

鉄工業職場に青少年工は生産、建設の第一線を擔つてゐる。職場に職線の勇士を偲び研農工に向つて流す汗は、とりもなほさず新日本への躍進だ。(三等賞)

|      |           |       |      |
|------|-----------|-------|------|
| カメラ  | ロイヤルコニカ   | レヤフター | 五分の一 |
| レンズ  | キヤノン F5.6 | フィルム  | 黄色二號 |
| フィルム | キヤノン      | ネオパン  |      |





く効で量微く易み服

# ンミタイヴ 研理+

## 夏に鍛へよ 暑熱に挑め

體軍を鍛へるものは運動だ  
體力を培ふものは榮養だ!

ビタミンは凡ゆる榮養をエネルギー  
化し、全細胞に潑刺たる活力を與へる

肉體のガソリンだ、何人にも  
必要な力と健康の糧だ!



世界一十國製法特許  
帝國學士院賞領  
日本化學會賞領

# RIKEN

店商置主 社有株式 店理代總

DAンミタイヴ純てし製精を油肝  
一品製き高威權るたし集彙出抽を  
用服し定檢に確正を量含に毎球  
微りせ期を確的の果効と便至の  
才揮撥を用作壯強るな大てに量

りあに店薬・球千・球百五・球百・球十圓(袋包)

楽しいひととき  
東京市大森區  
北千代田六八八 金原 雅一  
朝のうづきももうほとんととれ、血色  
もすつかり良くなつた白衣の男子、折か  
らお見舞の東京の坊やと庭に出て、暖か  
い陽ざしを浴びる心は楽しい(佳作)

|     |      |      |       |
|-----|------|------|-------|
| カキタ | ロイヤル | レニョー | ファイナル |
| 不明  | 不明   | 不明   | 不明    |



孫に語る戦後便り  
宮崎市通一丁目 大 陸 隆  
男子が日本に帰った母と子供。今男子の故郷  
に送つた手紙を手に老眼をかけた祖母が一生  
懸命をあれどもチンと強つた孫を前に「お父さん  
はね」と讀んで開かせる灯影の下(佳作)

町はづれの路切  
福島市清野町三 片岡 宗市  
一今度のお役に立つ番だ！と力強く言  
ひのこし大陸の聖戦にと夫は出征した。武  
運長久を祈りつゝ日の丸の旗ふつてじつと  
汽車を見送る妻のその子日本帰れ(佳作)



| 所 込 申     | 價 定   | 所 込 申  |
|-----------|---|--|
| 寫真週報(裝幀)  | 一ケ年(會費) 四圓八十錢                               | 昭和十三年七月十三日印刷發行   |
| 寫真週報(送部)  | 一ケ年分未滿配達希望の<br>方は一部十錢の割合を以て<br>前金を添へ御申込み下さい | 編輯部 内閣情報部<br>東京市錦町東本町<br>印刷部 大日本印刷株式會社<br>東京市牛久保市谷<br>電話部 東京市牛久保市谷 |
| 全國各地官報販賣所 | 東京市牛久保市谷<br>電話部 東京市牛久保市谷<br>電話部 東京市牛久保市谷    | 郵局 東京市牛久保市谷  |
| 東都書籍株式會社  | 東京市牛久保市谷                                    | 郵局 東京市牛久保市谷  |
| 各地新聞販賣所   | 東京市牛久保市谷                                    | 郵局 東京市牛久保市谷  |
| 寫真材料店     | 東京市牛久保市谷                                    | 郵局 東京市牛久保市谷  |

第廿二號表紙  
横須賀軍港に投鐘中の帝國軍艦  
「五十鈴」の艦首を清掃してゐる  
水兵さん。事變下波濤を蹴つて西  
に東に活躍するわが艦艇の勞苦は  
潮にたふされ、風雨に曝された艦  
の南にも思はれる。





昭和十三年度版

# 人絹年鑑

## 目次大綱

第一編 日本

第一章 昭和十二年の業界

第二章 人絹物

第三章 人絹物と東洋市場

第四章 人絹物と支那の消費状況

第五章 人絹物と支那の消費状況

第六章 人絹物と支那の消費状況

第七章 人絹物と支那の消費状況

第八章 人絹物と支那の消費状況

第九章 人絹物と支那の消費状況

第十章 人絹物と支那の消費状況

第十一章 人絹物と支那の消費状況

第十二章 人絹物と支那の消費状況

第十三章 人絹物と支那の消費状況

第十四章 人絹物と支那の消費状況

第十五章 人絹物と支那の消費状況

第十六章 人絹物と支那の消費状況

第十七章 人絹物と支那の消費状況

第十八章 人絹物と支那の消費状況

第十九章 人絹物と支那の消費状況

第二十章 人絹物と支那の消費状況

第二編 世界

第一章 人絹工業の沿革

第二章 輸出国と輸出市場

第三章 各国人絹消費の内容

第四章 人絹消費の世界的動向

第五章 一九三七年の世界人絹界

第三編 關係工業

第一章 ベルブ工業

第二章 世界における木村パルプの生産と供給

第三章 セロファン工業

第四章 製品類

第四編 わが国の人絹創成期の體験を語る

第一章 人絹と自分

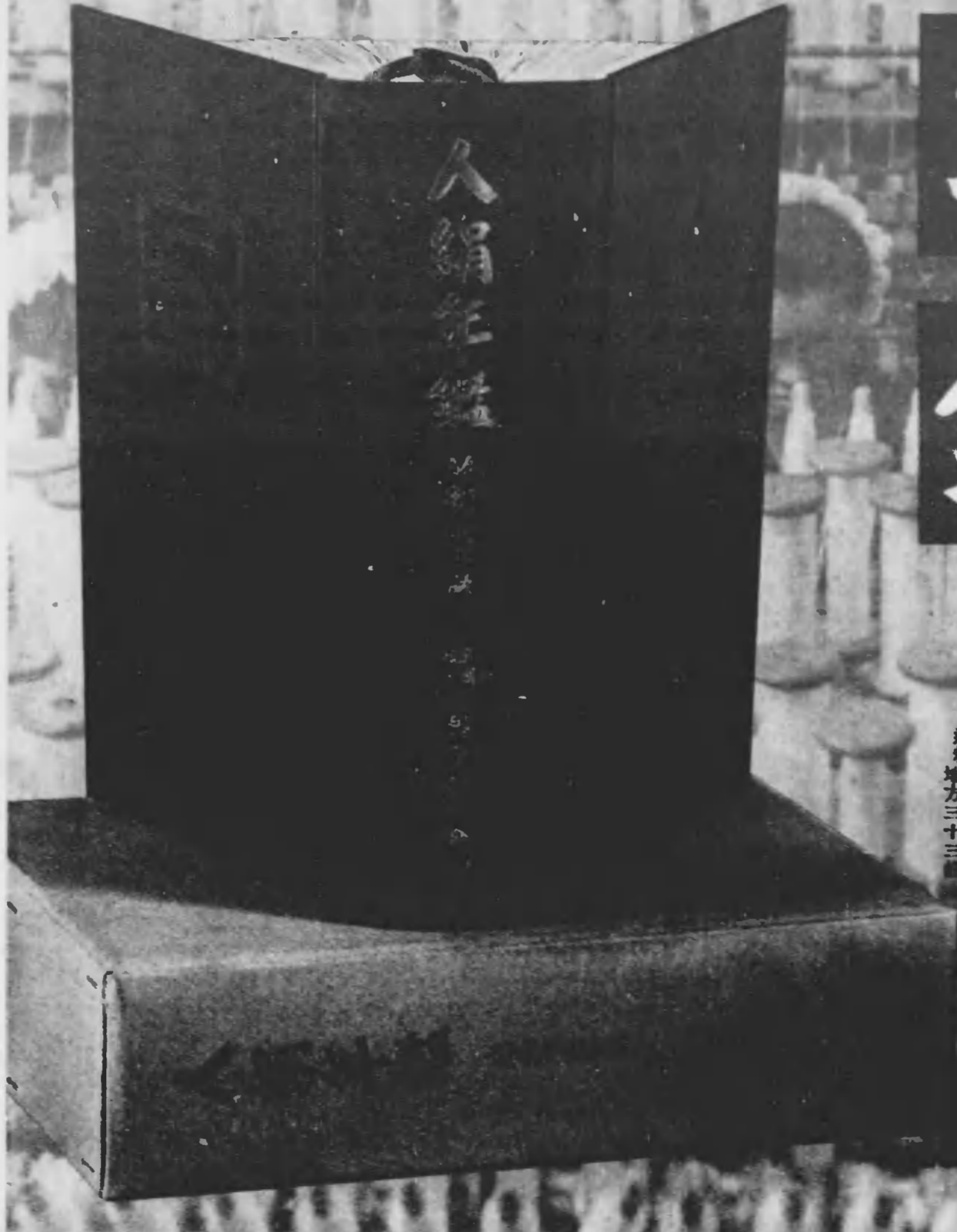
第二章 創業當時を語る

第三章 ヲイスコ！人絹工業の進歩時代を語る

第四章 金子村三太吉

附録

一 各国人絹糸布輸入關稅、人絹の國際規格、度量衡各種單位とその換算早見表、各種統計表、人絹各社、材料機械業者表



☆菊判壹千五百餘頁  
 ☆總布表紙特製  
 定價 金 五 圓

發行所 東京市內十二區  
 地方三十三區

東京週報 昭和十三年二月十日 第三編 關係工業 昭和十三年七月十三日發行 (編輯) 金子村三太吉 (印刷) 日本印刷社 第五二號

(本書の大きさは菊判A4・「通欄」倍判)